

2021年主要文献目録

(2021年刊行の文献を掲載対象としている)

* 国際法、国際私法の雑誌名は原則として法律編集者懇話会のものを使用した。略語表は『法律関係8学会共通会員名簿』又は『法律時報』93巻13号(2021年12月)を参照。

国際政治・外交史

著書

【一般】

ジョン・アイケンベリー(著), 猪口孝(監訳), 岩崎良行(訳)	民主主義にとって安全な世界とは何か—国際主義と秩序の危機	西村書店
青木 節子	中国が宇宙を支配する日—宇宙安保の現代史	新潮新書
浅野 豊美(編)	和解学の試み—記憶・感情・価値	明石書店
荒木 和華子、福本 圭介(編著)	帝国のヴェール—人種・ジェンダー・ポストコロナリズムから解く世界	明石書店
蘭 信三、一ノ瀬 俊也、石原 俊、佐藤 文香、西村 明、野上 元、福間 良明(編)	「戦争と社会」という問い	岩波書店
池本 修一(編著)	体制転換における国家と市場の相克—ロシア、中国、中欧	日本評論社
市川 ひろみ、松田 哲、初瀬 龍平(編著)	国際関係論のアポリア—思考の射程	晃洋書房
スティーヴン・M.ウォルト(著), 今井宏平、溝渕正季(訳)	同盟の起源—国際政治における脅威への均衡	ミネルヴァ書房
惠羅 さとみ	建設労働と移民—日米における産業再編成と技能	名古屋大学出版会
ヤン・オングストローム、J.J. ワイデン(著), 北川 敬三(監訳)	軍事理論の教科書—戦争のダイナミクスを学ぶ	勁草書房
ダン・カーリン(著), 会 圭子(訳)	危機の世界史	文藝春秋
郭 四志	産業革命史—イノベーションに見る国際秩序の変遷	ちくま新書
加藤 有子(編)	ホロコーストとヒロシマーポーランドと日本における第二次世界大戦の記憶	みすず書房
上野 友也	膨張する安全保障—冷戦終結後の国連安全保障理事会と人道的統治	明石書店
上村 剛	権力分立論の誕生—ブリテン帝国の『法の精神』受容	岩波書店
川島 真、池内 恵(編)	新興国から見るアフターコロナの時代—米中対立の間に広がる世界	東京大学出版会
川瀬 貴之	リベラル・ナショナリズムの理論	法律文化社
川名 晋史(編)	基地問題の国際比較—「沖縄」の相対化	明石書店
君塚 直隆	カラー版 王室外交物語—紀元前14世紀から現代まで	光文社新書
黒澤 満	核不拡散条約50年と核軍縮の進展	信山社
マシュー・C・クレイン、マイケル・ペティス(著), 小坂 恵理(訳)	貿易戦争は階級闘争である—格差と対立の隠された構造	みすず書房
小林 良樹	なぜ、インテリジェンスは必要なのか	慶應義塾大学出版会
佐藤 隆三、ジョセフ・ナイ	バイデン政権と中国、そして日本の進路	日本評論社
篠田 英朗	パートナーシップ国際平和活動—変動する国際社会と紛争解決	勁草書房

信夫 隆司	米兵はなぜ裁かれないのか	みすず書房
謝花 直美	戦後沖縄と復興の「異音」—米軍占領下復興を求めた人々の生存と希望	有志舎
ニコラス・J・スパイクマン(著), 小野圭司(訳)	米国を巡る地政学と戦略—スパイクマンの勢力均衡論	芙蓉書房出版
ジェイソン・C・シャーマン(著), 矢吹啓(訳)	「弱者」の帝国—ヨーロッパ拡大の実態と新世界秩序の創造	中央公論新社
白鳥 潤一郎、高橋 和夫	世界の中の日本外交	放送大学教育振興会
鈴木 健人、伊藤 剛(編著)	米中争覇とアジア太平洋—関与と封じ込めの二元論を超えて	有信堂高文社
鈴木 基史、飯田 敬輔(編)	国際関係研究の方法—解説と実践	東京大学出版会
須田 祐子	データプライバシーの国際政治—越境データをめぐる対立と協調	勁草書房
高川 邦子	アウトサイダーたちの太平洋戦争—知られざる戦時下軽井沢の外国人	芙蓉書房出版
高嶋 航	スポーツからみる東アジア史—分断と連帯の二〇世紀	岩波新書
高橋 洋	エネルギー転換の国際政治経済学	日本評論社
高橋 良輔、山崎 望(編著)	時政学への挑戦—政治研究の時間論的転回	ミネルヴァ書房
武井 彩佳	歴史修正主義—ヒトラー賛美、ホロコースト否定論から法規制まで	中公新書
竹内 俊隆、神余 隆博(編著)	国連安保理改革を考える—正統性、実効性、代表性からの新たな視座	東信堂
玉井 良尚	制水権—軍による水の資源化	国際書院
ジョン・W・ダワー(著), 田代泰子、藤本博、三浦俊章(訳)	戦争の文化—パールハーバー・ヒロシマ・9.11・イラク	岩波書店
千々和 泰明	戦争はいかに終結したか—二度の大戦からベトナム、イラクまで	中公新書
寺田 匡宏、ダニエル・ナイルズ(編著)	人新世を問う—環境、人文、アジアの視点	京都大学学術出版会
寺本 康俊、永山 博之(編著)	国際社会における平和と安全保障	成文堂
天日 隆彦	歴史認識を問う	晃洋書房
中井 遼	欧州の排外主義とナショナリズム—調査から見る世論の本質	新泉社
中坂 恵美子、池田 賢市(編)	人の移動とエスニシティ—越境する他者と共生する社会に向けて	明石書店
中西 嘉宏	ロヒンギャ危機—「民族浄化」の真相	中公新書
中村 雅秀	タックス・ヘイヴンの経済学—グローバリズムと租税国家の危機	京都大学学術出版会
納家 政嗣、上智大学国際関係研究所(編)	自由主義的国際秩序は崩壊するのか—危機の原因と再生の条件	勁草書房
西海 洋志	保護する責任と国際政治思想	国際書院
西田 陽一	戦略思想史入門—孫子からリデルハートまで	ちくま新書
西谷 真規子、山田 高敬(編著)	新時代のグローバル・ガバナンス論—制度・過程・行為主体	ミネルヴァ書房
西原 和久	グローバル化する社会と意識のイノベーション—国際社会学と歴史社会学の思想的交差	東信堂
マイケル・ハワード(著), 奥山 真司(監訳)	クラウゼヴィッツ—『戦争論』の思想	勁草書房
林 博史	帝国主義国の軍隊と性—売春規制と軍用性的施設	吉川弘文館
広島市立大学広島平和研究所(編)	広島発の平和学—戦争と平和を考える13講	法律文化社

T.フジタニ(著), 板垣竜太、中村理香、米山リサ、李孝徳(訳)	共振する帝国—朝鮮人皇軍兵士と日系人米軍兵士	岩波書店
エリカ・フランツ(著), 上谷直克、今井宏平、中井遼(訳)	権威主義—独裁政治の歴史と変貌	白水社
サミール・ブリ(著), 新田享子(訳)	帝国の遺産—何が世界秩序をつくるのか	東京堂出版
ローレンス・フリードマン(著), 奥山真司(訳)	戦争の未来—人類はいつも「次の戦争」を予測する	中央公論新社
ロベール・ポワイエ(著), 山田鋭夫、平野泰朗(訳)	パンデミックは資本主義をどう変えるか—健康・経済・自由	藤原書店
ショーン・マクフェイト(著), 川村幸城(訳)	戦争の新しい10のルール—慢性的無秩序の時代に勝利をつかむ方法	中央公論新社
益田肇	人びとのなかの冷戦世界—想像が現実となるとき	岩波書店
松永泰行(編)	グローバル関係学2「境界」に現れる危機	岩波書店
松本悟、佐藤仁(編)	国際協力と想像力—イメージと「現場」のせめぎ合い	日本評論社
三船恵美	米中覇権競争と日本	勁草書房
宮島喬	多文化共生の社会への条件—日本とヨーロッパ、移民政策を問いなおす	東京大学出版会
ブランコ・ミラノヴィッチ(著), 西川美樹(訳), 梶谷懐(解説)	資本主義だけ残った—世界を制するシステムの未来	みすず書房
桃木至朗(責任編集)	ものがつなぐ世界史	ミネルヴァ書房
柳田辰雄(編著)	現代国際協力論—学融合による社会科学の試み	東信堂
山田朗、師井勇一(編)	平和創造学への道案内—歴史と現場から未来を拓く	法律文化社
山田満	平和構築のトリロジー—民主化・発展・平和を再考する	明石書店
山田満、本多美樹(編著)	「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築—共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か	明石書店
若尾祐司、木戸衛一(編)	核と放射線の現代史—開発・被ばく・抵抗	昭和堂
渡部恒雄、西田一平太(編)	防衛外交とは何か—平時における軍事力の役割	勁草書房

【日本関係】

荒哲	日本占領下のレイテ島	東京大学出版会
五百旗頭真(監修), 井上正也、上西朗夫、長瀬要石(執筆)	評伝福田赳夫—戦後日本の繁栄と安定を求めて	岩波書店
井上敏孝	日本統治時代台湾の築港・人材育成事業	晃洋書房
伊藤之雄	東久邇宮の太平洋戦争と戦後—陸軍大将・首相の虚実 一九三二～九〇年	ミネルヴァ書房
伊藤陽平	日清・日露戦後経営と議会政治—官民調和構想の相克	吉川弘文館
井上寿一	広田弘毅—常に平和主義者だった	ミネルヴァ書房
岩崎奈緒子	近世後期の世界認識と鎖国	吉川弘文館
榮元	租借地大連における日本語新聞の事業活動—満洲日日新聞を中心に	晃洋書房
榎本泰子	「敦煌」と日本人—シルクロードにたどる戦後の日中関係	中公選書ラクレ
大木毅	日独伊三国同盟—「根拠なき確信」と「無責任」の果てに	角川新書
大澤博明	明治日本と日清開戦—東アジア秩序構想の展開	吉川弘文館

大田 英昭	日本社会主義思想史序説—明治国家への対抗構想	日本評論社
大谷 栄一(編)	戦後日本の宗教者平和運動	ナカニシヤ出版
大前 信也	事変拡大の政治構造—戦費調達と陸軍、議会、大蔵省	芙蓉書房出版
岡部 芳彦	日本・ウクライナ交流史 1915-1937年	神戸学院大学出版会
大日方 純夫	世界の中の近代日本と東アジア—対外政策と認識の形成	吉川弘文館
小野寺 史郎	戦後日本の中国観—アジアと近代をめぐる葛藤	中央公論新社
片山 慶隆(編著)	アジア・太平洋戦争と日本の対外危機—満洲事変から敗戦に至る政治・社会・メディア	ミネルヴァ書房
加藤 圭木	紙に描いた「日の丸」—足下から見る朝鮮支配	岩波書店
加藤 典洋	9条の戦後史	ちくま新書
兼原 信克	安全保障戦略	日経BP日本経済新聞出版本部
上白石 実	十九世紀日本の対外関係—開国という幻想の克服	吉川弘文館
木宮 正史	日韓関係史	岩波新書
木村 康張	能登半島沖不審船対処の記録—P-3C哨戒機機長が見た真実と残された課題	芙蓉書房出版
権 学俊	スポーツとナショナリズムの歴史社会学—戦前—戦後日本における天皇制・身体・国民統合	ナカニシヤ出版
熊本 博之	交差する辺野古—問いなおされる自治	勁草書房
熊本 史雄	幣原喜重郎—国際協調の外政家から占領期の首相へ	中公新書
斉藤 利彦	国民義勇戦闘隊と学徒隊—隠蔽された「一億総特攻」	朝日新聞出版
酒井 雅代	近世日朝関係と対馬藩	吉川弘文館
佐々木 猛也	原爆—捨てられない記憶と記録	日本評論社
アーネスト・M・サトウ(著), 楠家 重敏(訳)	変革の目撃者—アーネスト・サトウの幕末明治体験(上、下巻)	晃洋書房
佐藤 忍	日本の外国人労働者受け入れ政策—人材育成指向型	ナカニシヤ出版
佐藤 仁	開発協力のつくり方—自立と依存の生態史	東京大学出版会
真田 尚剛	「大国」日本の防衛政策—防衛大綱に至る過程 1968～1976年	吉田書店
猿谷 弘江	六〇年安保闘争と知識人・学生・労働者—社会運動の歴史社会学	新曜社
国際協力機構(JICA)運輸交通ナレッジ	鉄道で世界をつなぐ—海外プロジェクトの現状と展望	日刊建設工業新聞社
アケミ・ジョンソン(著), 真田 由美子(訳)	アメリカンビレッジの夜—基地の町・沖縄に生きる女たち	紀伊國屋書店
城山 英巳	マオとミカド—日中関係史の中の「天皇」	白水社
鈴木 貞美	満洲国—交錯するナショナリズム	平凡社新書
鈴木 美勝	北方領土交渉史	ちくま新書
関口 哲矢	強い内閣と近代日本—国策決定の主導権確保へ	吉川弘文館
武田 康裕(編著)	在外邦人の保護・救出—朝鮮半島と台湾海峡有事への対応	東信堂
谷川 建司	ベースボールと日本占領	京都大学学術出版会
種稲 秀司(著), 日本歴史学会(編集)	幣原喜重郎	吉川弘文館
千々和 泰明	安全保障と防衛力の戦後史 1971～2010—「基盤的防衛力構想」の時代	千倉書房

張 雲	日中相互不信の構造	東京大学出版会
辻田 真佐憲	防衛省の研究—歴代幹部でたどる戦後日本の国防史	朝日新書
中嶋 晋平	戦前期海軍のPR活動と世論	思文閣出版
永吉 希久子(編)	日本の移民統合—全国調査から見る現況と障壁	明石書店
新原 昭治	密約の戦後史—日本は「アメリカの核戦争基地」である	創元社
能勢 伸之	極超音速ミサイルが揺さぶる「恐怖の均衡」—日本のミサイル防衛を無力化する新型兵器	扶桑社新書
浜井 和史	戦没者遺骨収集と戦後日本	吉川弘文館
原 剛	沖縄戦における住民問題	錦正社
樋口 真魚	国際連盟と日本外交—集団安全保障の「再発見」	東京大学出版会
藤田 俊	戦間期日本陸軍の宣伝政策—民間・大衆にどう対峙したか	芙蓉書房出版
北海道新聞社(編)	消えた「四島返還」—安倍政権 日ロ交渉2800日を追う	北海道新聞社
堀 真清	二・二六事件を読み直す	みすず書房
増田 弘、中島 政希(監修)	鳩山一郎とその時代	平凡社
松田 ヒロ子	沖縄の植民地的近代—台湾へ渡った人びとの帝国主義的キャリア	世界思想社
三谷 文栄	歴史認識問題とメディアの政治学—戦後日韓関係をめぐるニュースの言説分析	勁草書房
湊 照宏、齊藤 直、谷ヶ城 秀吉	国策会社の経営史—台湾拓殖から見る日本の植民地経営	岩波書店
ジャニス・ミムラ(著)、安達まみ、高橋 実紗子(訳)	帝国の計画とファシズム—革新官僚、満洲国と戦時下の日本国家	人文書院
宮城 大蔵(編著)	平成の宰相たち—指導者—六人の肖像	ミネルヴァ書房
村井 良太	市川房枝—後退を阻止して前進	ミネルヴァ書房
村山 裕三(編著)、鈴木 一人、小野 純子、中野 雅之、土屋 貴裕(著)	米中の経済安全保障戦略—新興技術をめぐる新たな競争	芙蓉書房出版
本島 和人	満洲移民・青少年義勇軍の研究—長野県下の国策遂行	吉川弘文館
諸橋 英一	第一次世界大戦と日本の総力戦政策	慶應義塾大学出版会
山田 順一	インフラ協力の歩み—自助努力支援というメッセージ	東京大学出版会
吉田 裕(編)	戦争と軍隊の政治社会史	大月書店
李 里花(編著)	朝鮮籍とは何か—トランスナショナルの視点から	明石書店
柳 愛林	トクヴィルと明治思想史—「デモクラシー」の発見と忘却	白水社
渡辺 浩平	第七師団と戦争の時代—帝国日本の北の記憶	白水社
渡辺 延志	歴史認識日韓の溝—分り合えないのはなぜか	ちくま新書

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

秋田 茂、細川 道久	駒形丸事件—インド太平洋世界とイギリス帝国	ちくま新書
浅田 正彦	イランの核問題と国際法	東信堂
麻田 雅文	蒋介石の書簡外交—日中戦争、もう一つの戦場(上、下巻)	人文書院
スニール・アムリス(著)、秋山 勝	水の大陸アジア—ヒマラヤ水系・大河・海洋・モンスーンとアジアの近現代	草思社
荒木 圭子	マーカス・ガーヴィーと「想像の帝国」—国際的人種秩序への挑戦	千倉書房
飯倉 江里衣	満洲国軍朝鮮人の植民地解放前後史—日本植民地下の軍事経験と韓国軍への連続性	有志舎
五十嵐 隆幸	大陸反攻と台湾—中華民国による統一の構想と挫折	名古屋大学出版会

池端 蒔子	宗教復興と国際政治—ヨルダンとイスラーム協力機構の挑戦	晃洋書房
林 采成	東アジアのなかの満鉄—鉄道帝国のフロンティア	名古屋大学出版会
岩井紀子、央戸邦章(編), 大阪商業大学JGSS研究センター(編集協力)	データで見る東アジアの社会的ネットワークと社会関係資本	ナカニシヤ出版
岩下 明裕(編著)	北東アジアの地政治—米中日ロのパワーゲームを超えて	北海道大学出版会
岡本 隆司(編)	交隣と東アジア—近世から近代へ	名古屋大学出版会
小川 忠	自分探しするアジアの国々—揺らぐ国民意識をネット動画から見る	明石書店
小野 容照	韓国「建国」の起源を探る—三・一独立運動とナショナリズムの変遷	慶應義塾大学出版会
柯 隆	「ネオ・チャイナリスク」研究—ヘゲモニーなき世界の支配構造	慶應義塾大学出版会
川上 桃子、呉 介民(編), 川上 桃子(監訳), 津村 あおい(訳)	中国(チャイナ)ファクターの政治社会学—台湾への影響力の浸透	白水社
貴志 俊彦	アジア太平洋戦争と収容所—重慶政権下の被収容者の証言と国際救済機関の記録から	国際書院
岸本 美緒	明末清初中国と東アジア近世	岩波書店
金 惠京	未完の革命—韓国民民主主義の100年	明石書店
木村 真希子	終わりなき暴力とエスニック紛争—インド北東部の国内避難民	慶應義塾大学出版会
牛 軍(著), 真水 康樹(訳)	中国外交政策決定研究	千倉書房
巖 善平	超大国中国のあゆみ	晃洋書房
呉 叡人(著), 駒込 武(訳)	台湾、あるいは孤立無援の島の思想—民主主義とナショナリズムのディレンマを越えて	みすず書房
コ・ギョンテ(著), 平井 一臣、姜 信一、木村 貴、山田 良介(訳)	ベトナム戦争と韓国、そして1968	人文書院
洪 郁如	誰の日本時代—ジェンダー・階層・帝国の台湾史	法政大学出版局
小西 鉄	新興国のビジネスと政治—インドネシア バクリ・ファミリーの経済権力	京都大学学術出版会
柴田 哲雄	諜報・謀略の中国現代史—国家安全省の指導者にみる権力闘争	朝日新聞出版
佐野 正人(編著)	思想・文化空間としての日韓関係—東アジアの中で考える	明石書店
下條 尚志	国家の「余白」—メコンデルタ生き残りの社会史	京都大学学術出版会
岑 智偉、東郷 和彦(編著)	一帯一路—多元的視点から読み解く中国の共栄構想	晃洋書房
仙谷 学	中東欧の政治	東京大学出版会
園田 茂人、謝 宇(編)	世界の対中認識—各国の世論調査から読み解く	東京大学出版会
高尾 賢一郎	サウジアラビア—「イスラーム世界の盟主」の正体	中公新書
高橋 伸夫	中国共産党の歴史	慶應義塾大学出版会
田所 昌幸(編)	素顔の現代インド	慶應義塾大学出版会
段 瑞聡	蒋介石の戦時外交と戦後構想 1941-1971年	慶應義塾大学出版会
鄭 鍾賢(著), 渡辺 直紀(訳)	帝国大学の朝鮮人—大韓民国エリートの起源	慶應義塾大学出版会
レオ・チン(著), 倉橋 耕平(監訳), 趙相宇、永富 真梨、比護 遥、輪島 裕介(訳)	反日—東アジアにおける感情の政治	人文書院
中村 覚(監修), 末近 浩太(編)	シリア・レバノン・イラク・イラン(シリーズ・中東政治研究の最前線)	ミネルヴァ書房
縄田 浩志(編著)	現代中東の資源開発と環境配慮—SDGs時代の国家戦略の行方	法律文化社

白永瑞(編), 青柳純一(監訳), 米津篤八、朴貞蘭、李正連(訳)	百年の変革—三・一運動からキャンドル革命まで	法政大学出版局
花井みわ	「辺境」の文化複合とその変容—東アジア文化圏を生きる中国朝鮮族	御茶の水書房
狹間直樹	近代東アジア文明圏の啓蒙家たち	京都大学学術出版会
畑恵子、浦部浩之(編)	ラテンアメリカ—地球規模課題の実践	新評論
東アジア共同体研究所琉球・沖縄センター(編)	「台湾有事」戦争前夜の危機に抗う	芙蓉書房出版
廣江倫子、阿古智子	香港国家安全維持法のインパクト—一国二制度における自由・民主主義・経済活動はどう変わるか	日本評論社
S.C.M.ペイン(著), 荒川憲一(監訳), 江戸伸禎(訳)	アジアの多重戦争1911-1949—日本・中国・ロシア	みすず書房
邊見伸弘	チャイナ・アセアンの衝撃—日本人だけが知らない巨大経済圏の真実	日経BP
堀本武功、村山真弓、三輪博樹(編)	これからのインド—変貌する現代世界とモディ政権	東京大学出版会
毛里和子	現代中国内政と外交	名古屋大学出版会
村橋勲	南スーダンの独立・内戦・難民—希望と絶望のあいだ	昭和堂
山尾大	紛争のインパクトをはかる—世論調査と計量テキスト分析からみるイラクの国家と国民の再編	晃洋書房
山口信治	毛沢東の強国化戦略 1949-1976	慶應義塾大学出版会
熊達雲(編)	アジア共同体の構築—実践と課題	日本僑報社
楊海英	内モンゴル紛争—危機の民族地政学	ちくま新書
横井勝彦(編著)	冷戦期アジアの軍事と援助	日本経済評論社
吉澤誠一郎	愛国とボイコット—近代中国の地域的文脈と対日関係	名古屋大学出版会
渡邊利夫	国際政治のなかの中南米史—実体験を通してリアリズムで読む	彩流社

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

アジア開発銀行(著), 澤田康幸(監訳)	アジア開発史—政策・市場・技術発展の50年を振り返る	勁草書房
網谷龍介	計画なき調整—戦後西ドイツ政治経済体制と経済民主化構想	東京大学出版会
伊藤武、網谷龍介(編)	ヨーロッパ・デモクラシーの論点	ナカニシヤ出版
市川顕、高林喜久生(編著)	EUの規範とパワー	中央経済社
岩井淳、竹澤祐丈(編著)	ヨーロッパ複合国家論の可能性—歴史学と思想史の対話	ミネルヴァ書房
岩崎正洋(編)	ポスト・グローバル化と国家の変容	ナカニシヤ出版
岩間陽子	核の一九六八年体制と西ドイツ	有斐閣
岩本和子、井内千紗(編著)	ベルギーの「移民」社会と文化—新たな文化的多層性に向けて	松籟社
ミシェル・ヴィノック(著), 大嶋厚(訳)	シャルル・ドゴール—歴史を見つめた反逆者	作品社
植田隆子(編著)	新型コロナ危機と欧州—EU・加盟10カ国と英国の対応	文眞堂
遠藤泰生(編)	反米—共生の代償か、闘争の胎動か	東京大学出版会
大津留厚	さまよえるハプスブルク—捕虜たちが見た帝国の崩壊	岩波書店

イアン・カーショー(著), 宮下 嶺夫(訳), 小原 淳(解説)	ナチ・ドイツの終焉1944-45	白水社
北村 陽子	戦争障害者の社会史—20世紀ドイツの経験と福祉国家	名古屋大学出版会
クリストファー・クラーク(著), 小原 淳、齋藤 敬之、前川 陽祐(訳)	時間と権力—三十年戦争から第三帝国まで	みすず書房
小泉 悠	現代ロシアの軍事戦略	ちくま新書
児玉 昌己(著), 久留米大学法学会(編)	現代欧州統合論—EUの連邦的統合の深化とイギリス	成文堂
今野 元	ドイツ・ナショナリズム—「普遍」対「固有」の二千年史	中公新書
櫻田 大造	対米同盟とは何か—ノーラッドと米加関係	勁草書房
佐藤 千登勢	フランクリン・ローズヴェルト—大恐慌と大戦に挑んだ指導者	中公新書
佐橋 亮	米中対立—アメリカの戦略転換と分断される世界	中公新書
塩川 伸明	国家の解体—ペレストロイカとソ連の最期	東京大学出版会
芝 健介	ヒトラー—虚像の独裁者	岩波新書
柴 宜弘	ユーゴスラヴィア現代史	岩波新書
須網隆夫、21世紀政策研究所(編)	EUと新しい国際秩序	日本評論社
シグムント・ステイン(著), 辻由美(訳)	スペイン内戦と国際旅団—ユダヤ人兵士の回想	みすず書房
ティモシー・スナイダー(著), 松井 貴子(訳), 梶 さやか(解説)	秘密の戦争—共産主義と東欧の20世紀	慶應義塾大学出版会
谷 一巳	帝国とヨーロッパのあいだで—イギリス外交の変容と英仏協商1900-1905年	勁草書房
玉井 雅隆	欧州安全保障協力機構(OSCE)の多角的分析—「ウィーンの東」と「ウィーンの西」の相克	志學社
辻河 典子	パリ講和会議体制とハンガリー—亡命政治家からみたヨーロッパ国際関係	東京大学出版会
土倉 莞爾	西ヨーロッパ・キリスト教民主主義の研究	関西大学出版部
土屋 由香	文化冷戦と科学技術—アメリカの対外情報プログラムとアジア	京都大学学術出版会
スティーブン・デイ、カ久 昌之	「ブレグジット」という激震—混乱するイギリス政治	ミネルヴァ書房
東京財団政策研究所(監修), 久保 文明(編)	トランプ政権の分析—分極化と政策的収斂との間で	日本評論社
富樫 耕介	コーカサスの紛争—ゆれ動く国家と民族	東洋書店新社
ジョセフ・S・ナイ(著), 駒村 圭吾(監修), 山中 朝晶(訳)	国家にモラルはあるか?—戦後アメリカ大統領の外交政策を採点する	早川書房
トーマス・ニッパード(著), 大内 宏一(訳)	ドイツ史1800-1866—市民世界と強力な国家(上、下巻)	白水社
能勢 和宏	初期欧州統合1945-1963—国際貿易秩序と「6か国のヨーロッパ」	京都大学学術出版会
蓮見 雄、高屋 定美(編著)	沈まぬユーロ—多極化時代における20年目の挑戦	文眞堂
羽場 久美子(編著)	移民・難民・マイノリティー—欧州ポピュリズムの根源	彩流社
林 忠行	チェコスロヴァキア軍団—ある義勇軍をめぐる世界史	岩波書店
原田 昌博	政治的暴力の共和国—ワイマル時代における街頭・酒場とナチズム	名古屋大学出版会
平田 雅博	ブリテン帝国史のいま—グローバル・ヒストリーからポストコロニアルまで	晃洋書房

廣瀬 陽子	ハイブリッド戦争—ロシアの新しい国家戦略	講談社現代新書
オレーク・V・フレヴニューク(著), 石井 規衛(訳)	スターリン—独裁者の新たなる伝記	白水社
アラン・ブロック(著), 鈴木 主税(訳)	ヒトラーとスターリン—対比列伝(第一～四巻)	草思社文庫
ウルリヒ・ヘルベルト(著), 小野寺 拓也(訳)	第三帝国—ある独裁の歴史	角川新書
松浦 義弘、山崎 耕一(編)	東アジアから見たフランス革命	風間書房
松里 公孝	ポスト社会主義の政治—ポーランド、リトアニア、アルメニア、ウクライナ、モルドヴァの準大統領制	ちくま新書
松壽 英也	民族自決運動の比較政治史—クリミアと沿ドニエストル	晃洋書房
松本 佐保	アメリカを動かす宗教ナショナリズム	ちくま新書
山本 健	ヨーロッパ冷戦史	ちくま新書
吉井 昌彦(編著)	EUの回復力	勁草書房
吉留 公太	ドイツ統一とアメリカ外交	晃洋書房

【資料】

バラク・オバマ(著), 山田 文、三宅 康雄、長尾 莉紗、高取 芳彦、藤田 美菜子、柴田 さとみ、山田 美明、関根 光宏、芝 瑞紀、島崎 由里子(訳)	約束の地—大統領回顧録 I(上、下巻)	集英社
外務省	日本外交文書昭和期4 日米関係 第一巻(昭和二十七～二十九年)(上、下巻)	白峰社、六一書房
加藤 良三(著), 三好範英(聞き手・編)	日米の絆—元駐米大使加藤良三回顧録	吉田書店
社会経済史学会(編)	社会経済史学事典	丸善出版
蔣 経国(著), 青木 俊一郎(訳)	蔣経国回想録—蔣経国かく奮斗せり	東洋書院
尚友倶楽部、季武 嘉也、櫻井 良樹(編)	財部彪日記 海軍大臣時代	芙蓉書房出版
尚友倶楽部、原口 大輔、西山 直志(編)	松本学日記 昭和十四年～二十二年	芙蓉書房出版
鈴木 靖民(監修), 高久 健二、田中 史生、浜田 久美子(編)	古代日本対外交流史事典	八木書店
田島 道治	昭和天皇拝謁記—初代宮内庁長官田島道治の記録(第一巻)	岩波書店
平和・安全保障研究所(編), 西原正(監修)	アジアの安全保障 2021-2022—先鋭化する米中対立進む西側の結束	朝雲新聞社
防衛研究所(編)	東アジア戦略概観2021	インターブックス
松浦 晃一郎	アジアから初のユネスコ事務局長 松浦晃一郎	日経BP日本経済新聞出版本部
藪中 三十二	外交交渉四〇年—藪中三十二回顧録	ミネルヴァ書房

論文(国際政治・外交史)

【一般】

赤坂 清隆	コロナ禍へのWHOの対応と課題	グローバル・ガバナンス7
赤星 聖	グローバル保健と人道支援の接近? —エボラ出血熱からCOVID-19へ—	国際安全保障49(3)
秋山 信将	大国間関係の変容と軍備管理体制	国際政治203
秋山 信将	大国間の戦略的競争と核軍備管理	国際問題700
足立 研幾	核不拡散規範の行方——規範の消滅論の視座から——	国際政治203
一政 祐行	「第二の核時代」論再考	国際政治203
植木(川勝) 千可子	核と国際政治	国際政治203
上野 友也	COVID-19と安全保障 —概観と展望—	国際安全保障49(3)
上村 雄彦	SDGsと市民社会: グローバルな政策と制度の構築の視点から	国連研究22
宇野 重規	危機を克服するのはいかなる国家、いかなる社会か	国際問題698
近江 美保	COVID-19とジェンダー「危機」と「構造」	平和研究56
大屋 雄裕	パンデミックと超監視社会の可能性	国際問題698
小川 裕子	目標による統治は可能か?: SDGsの実効性と課題	国連研究22
川崎 哲	核兵器禁止条約と市民社会の役割	平和研究57
加藤 茂孝	どう不安を減らすか? 感染症対策こそ、国際問題	国際問題698
亀山 康子	エネルギー・気候変動政策から紐解く国際関係	国際政治202
川中 豪	民主主義の現在を理解するための3つの理論——Carles Boix, Democratic Capitalism at the Crossroads: Technological Change and the Future of Politics. Princeton, New Jersey: Princeton University Press, 2019/Torben Iversen and David Soskice, Democracy and Prosperity: Reinventing Capitalism through a Turbulent Century. Princeton, New Jersey: Princeton University Press, 2019/Pippa Norris and Ronald Inglehart, Cultural Backlash: Trump, Brexit, and Authoritarian Populism. Cambridge: Cambridge University Press, 2019——	アジア経済62(1)
岸見 太一	外国人一時的労働者受け入れ制度の政治理論——M・ルースの正当化論の批判的検討	年報政治学2021(2)
北島佑樹	国際刑事裁判所(ICC)における条約法条約の適用とその意義—近年の行為支配論の採用根拠の変化を中心に—	国際関係論研究36
洪 恵子	新型コロナウイルスの感染拡大と人種差別 国連の人権保障メカニズムの対応	国際問題699
後藤 純一	ヒトのグローバリゼーションと国内労働市場	国際問題703
小林 綾子	国連平和活動とローカルな平和	国連研究22
齊藤 孝祐	イノベーション・エコシステムの拡大と投資規制 —「安全保障」をめぐる価値対立とその変容—	国際安全保障49(1)
佐藤 史郎	NPTの不平等性と核兵器禁止条約の論理—秩序/無秩序, 平等/不平等	平和研究57
嶋原 敦子	核の「平和利用」と開発主義——3.11後の「復興」は何を担ったのか	平和研究57
清水 奈名子	平和研究の現代的課題——オンライン・ジャーナル化に寄せて	平和研究56
菅原 絵美	SDGsと企業: 「ビジネスと人権」に関する企業の責任と役割	国連研究22
園部 哲史	貧困削減の進捗と開発協力の将来	国際問題700
高橋 一生	MDGsからSDGsへ: その過程の検証とポストSDGsの課題	国連研究22
滝澤 三郎	難民の国際的保護の現状——人道と政治の相克する現場の視点から——	グローバル・ガバナンス7
竹中 千春	民主主義と国際社会の動揺——パンデミックの衝撃	平和研究56
戸崎 洋史	ポスト冷戦後の核軍備管理——変質の要因と再活性化の模索——	国際政治203
富川 英生	国防イノベーション・エコシステムのマネジメント	国際安全保障49(1)
中尾 麻伊香	「反核」「平和」と原爆被害をめぐる言説	平和研究57

中村 長史	新しい戦争からの出口の条件——二層ゲーム論の発展による撤退決定過程の解明	年報政治学2021(2)
中山 一郎	COVID-19パンデミックと特許 強制か、それとも自発か	国際問題699
納家 政嗣	国際協調は再生できるか	国際問題698
西海 洋志	セキュリティゼーション・ディレンマ再考 —安全保障の新たな枠組み—	国際安全保障49(3)
野口 和彦	国際システムを安定させるものは何か——核革命論と二極安定論の競合——	国際政治203
畑山 敏夫	国民国家への回帰現象について考える——「脱国民国家化」から「再国民化」へ	平和研究55
牧野 正義	グローバル化と国民的自己理解——憲法パトリオティズム	年報政治学2021(2)
松村 博行	イノベーション・エコシステムと安全保障	国際安全保障49(1)
萬歳 寛之	新型コロナウイルス感染症被害に対する国家の国際違法行為責任	国際問題699
水島 治郎	「幻滅のグローバルゼーション」とポピュリズムの台頭	国際問題700
宮井 健志	在外国民と代表民主主義——在外選挙制度と在外国民評議会を中心に	年報政治学2021(2)
向 和歌奈	核軍縮の試みに見る核抑止概念の固定化への一考察	国際政治203
村瀬 信也	感染症と国際法	国際問題699
山田 美和	「ビジネスと人権」とは何か 国連指導原則と人権外交の接点から	国際問題704
吉川 元	人権と安全保障の相克	国際問題704
吉川 元	民族の自決と国際平和の相克	平和研究55
脇村 孝平	疫病の地政学—19世紀のコレラパンデミックと検疫問題	アジア研究67(4)
鷺田 任邦	政治的分極化はいかに民主主義を後退させるのか:選挙不正認識ギャップ、権威主義の許容、非リベラル政党の台頭	年報政治学2021(1)

【日本関係】

荒 哲	日本占領下の戦時暴力と戦後の対日協力裁判をめぐる不平等な断罪——フィリピン・ネグロス島の例——	アジア経済62(3)
荒井 誉史	佐藤栄作政権と拡大核抑止力——核恫喝と国内政治 一九六四—一九六八——	国際政治203
有田 伸	ポスト産業化時代の日本と韓国における格差問題	国際問題703
安藤 研一	日本 EU EPAの経済的評価と残された課題	日本EU学会年報41
井口 泰	パンデミックのアジアへの影響及び日本の外国人労働者政策の課題	国際問題703
池上 萬奈	エネルギー資源と日本外交:化石燃料政策の変容を通して	法學研究94
石田 智範	金大中事件後の日本政治と朝鮮半島外交:三木武夫の米朝橋渡し外交の文脈	法學研究94
板山 真弓	日米同盟と信頼 —防衛協力の歴史的展開に注目して—	国際安全保障49(2)
大海渡 桂子	対中ODAの開始:冷戦構造の変容と日中関係	法學研究94
太田 昌克	「日米核同盟化」の進展とその含意	国際政治203
兼原 敦子	「パンデミック国際法」における海洋法:ダイヤモンド・プリンセス号にかかる寄港国措置	国際問題699
北岡 伸一、宮家 邦彦、中満 泉、佐々江 賢一郎	緒方貞子氏が目指した国際社会、岡本行夫氏が目指した日本外交	国際問題700
佐竹 眞明	日本社会の多文化化の現状から、日本の「国民」を考える	平和研究55
佐藤 仁志	技術革新、経済のグローバル化と所得格差 日本の正規・非正規雇用を巡る考察	国際問題703
シナン レヴェント	戦後日本の対中東外交にみる民族主義——アジア主義の延長線——	国際政治204
篠本 創	在日米軍基地と抗議行動——基地規模と経済的便益	年報政治学2021(1)

醍醐 龍馬	黒田清隆の樺太放棄運動——日露国境問題をめぐる国内対立	年報政治学2021(1)
高村 ゆかり	気候変動問題とエネルギー 国際社会の変容と変化のなかの日本外交	国際問題700
谷 京	日朝貿易に関する日本政府の政策決定——1960年代前半における直接輸送と直接決済の実現を中心に——	アジア経済62(3)
鶴岡 路人	日EU関係における「中国ファクター」	Keio SFC Journal 21(1)
中村 民雄	日欧戦略的パートナーシップ協定(SPA)の法的意義	日本EU学会年報41
西野 純也	中曽根康弘首相の対朝鮮半島外交：日韓戦略的提携のためのイニシアティブ	法學研究94
昇 亜美子	戦後日韓関係における「体制摩擦」と日本外交：一九六〇—一九八七年	法學研究94
朴 敬珉	戦後日本の対韓国外交の起源と歴史問題：旧植民地支配者の再生とその遺産	法學研究94
村上 友章	自衛隊による国際平和協力の到達点——平成史の「現場感覚」——	国際政治204
山田 裕之	一般司法制度に近接する軍事司法制度 —軍事司法制度の現代的意義と変革の展望—	国際安全保障49(1)
山本 健太郎	何が政党システム変容をもたらすのか——1990年代以降の日本を題材に	年報政治学2021(1)
尹 錫貞	一九六〇年代における日韓関係：日韓国交正常化会談・沖縄返還を中心に	法學研究94

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

青木 健太	米軍撤退とターリバーン復権——2021年アフガニスタン政権崩壊の背景	中東研究543
青山 瑠妙	「中国とアジア」研究の特徴——『国際政治』誌の視点から	国際政治204
飯島 渉	中国のCOVID-19対策と「社区」	アジア研究67(4)
五十嵐 隆幸	蔣経国の総統期における国防建設(1978~1988)——「台湾防衛」型の軍隊への改編と残存する「大陸反攻」の任務——	アジア経済62(1)
五十嵐 隆幸	再考「蒋介石＝ダレス共同コミュニケ」と大陸反攻	安全保障戦略研究2(1)
池田 明史	慢性化する混乱——コロナ禍の中東	中東研究541
池田 明史	2021年ガザ戦争とパレスチナ問題の位相	中東研究542
一谷 和郎	アジアにおける新型コロナウイルスパンデミック	アジア研究67(4)
伊藤 成朗	南アフリカにおける最低賃金規制と農業生産	アジア経済62(2)
井原 伸浩	シンガポールの「脆弱性」をめぐる諸議論とPOFMA	グローバル・ガバナンス7
今井 宏平	トルコ外交の変遷とトルコ・アメリカ関係の現在地	国際問題702
岩坂 将充	トルコの選挙制度における阻止条項の機能低下——人民民主党をめぐる戦略と選挙連合	年報政治学2021(1)
金子 真夕	トルコとEU——埋まらない溝	中東研究542
熊谷 聡	COVID-19版「東アジアの奇跡」は本物か 経済地理的アプローチからの回答	国際問題698
巖 善平	中国における地域間人口移動と経済格差	国際問題703
坂田 正三	ベトナムにおける感染症と情報発信のポリティクス	アジア研究67(4)
坂元 茂樹	中国の人権問題と日本の対応 ジェノサイドの主張に対する協力義務	国際問題704
白谷 望	イスラエルとの国交正常化によるモロッコ国民の葛藤——自国の領土か、同胞との連帯か	中東研究541
園田 節子	20世紀前半英領西インド諸島の地域間関係における華僑華人	イベロアメリカ研究83
武内 進一	日本の国際政治学におけるアフリカ	国際政治204
立山 良司	激化したイスラエル・パレスチナ対立 —大規模衝突が明らかにした紛争の多面性	国際問題702
田中 浩一郎	中東のエネルギー事情、そして中東とエネルギー情勢の相関	中東研究542
周 俊	中国共産党の「耳目」—新華社の『内部参考』の起源、構造及び機能(1949-1954)	アジア研究67(3)

土屋 貴裕	権威主義体制下のイノベーション・エコシステム —新興技術の研究開発・社会実装をめぐる中国の戦略と課題—	国際安全保障49(1)
内藤 寛子	1980年代後半の行政訴訟法の制定過程における中国共産党の論理—体制内エリートの統制と人民法院の「民主的な」機能	アジア研究67(3)
中川 雅彦	朝鮮社会主義経済における党営企業グループ	アジア経済63(1)
中島 勇	アラブ諸国との関係正常化とイスラエル	中東研究541
中西 久枝	イラン・アメリカ関係がイランの女性運動に与える影響—アフマディーネジャード政権期から現在まで—	—神教学際研究16
中西 嘉宏	ミャンマーは破綻国家になるのか 政変後の混迷と新たな展開	国際問題704
西海 洋志	保護する責任(R2P)とリビア後の展開の再検討: 紛争予防論の系譜と「第2.5の柱(Pillar Two-and-a-half)」?	国連研究22
錦田 愛子	諦めと期待の狭間で——関係正常化に対するパレスチナ自治区住民の反応	中東研究541
西野 友浩	東アジアの域内貿易構造変化と貿易額の増加	アジア研究67(4)
野村 明史	イスラエルとの関係正常化におけるUAEとバハレーンの国内事情	中東研究541
長谷川 将規	COVID-19後の中国をめぐる経済安全保障 —脅威国との通商、デジタル人民元、デカップリング—	国際安全保障49(3)
馬場 香織	メキシコの政党システム変容を捉える	年報政治学2021(2)
原 民樹	アキノの改革政治と競争法—包括的競争法成立にみる「包摂的成長」のビジョン	アジア研究67(2)
平野 聡	中国と人権 人権問題の国際化と「発展権」	国際問題704
藤井 広重	国際刑事裁判所をめぐるアフリカ連合の対外政策の変容—アフリカの一体性と司法化の進捗からの考察	平和研究57
堀抜 功二	ウラーへの道程 — 対カタル断交の解消と地域安定への課題	国際問題702
松永 泰行	ロウハーニー後のイランとバイデン政権 — 対イラン制裁とイラン核合意の行方	国際問題702
松本 はる香	新型コロナウイルスをめぐる中国の「ワクチン外交」— 米中争覇の行方	国際問題702
丸川 知雄	計画経済下の中国における孤立社会—「上海小三線」における生産と生活	アジア研究67(2)
三船 恵美	中国の対中東政策	国際問題702
三宅 康之	ビルマ連邦共和国の中華人民共和国承認外交	アジア研究67(1)
山尾 大	日本国際政治学会における中東研究の変遷	国際政治204
山田 美和	「ビジネスと人権に関する国連指導原則」にもとづくタイの国家行動計画の策定——なぜタイはアジア最初のNAP策定国となったのか——	アジア経済62(2)
尹 在彦	「加害者の政治学」と国内政治による規範の制度化——ベトナム戦争時の民間人虐殺と韓国の対越政策	平和研究55
李 奇泰	文在寅政権の「韓半島の平和プロセス」と日朝関係	法學研究94
渡邊 武	強制外交における政治的企図——北朝鮮による文在寅政権への脅迫——	安全保障戦略研究2(1)
Achin Vanaik	Foreign Policy in the Modi Era	アジア研究67(2)
Chiharu Takenaka	Trilateral Relations between China, India and Japan in Times of Volatility and Power Shift	アジア研究67(2)
Kazuya Nakamizo	The Politics of Obedience: The BJP System and the 2020 Bihar State Assembly Election	アジア研究67(2)
Pamela Philipose	The Indian Media and Authoritarian Politics	アジア研究67(2)

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

会田 弘継	バイデン政権の課題	国際問題701
青木 健太	米国の対中東外交とトランプ政権 — 軍事的撤退と対イラン強硬政策に着目して—	国際安全保障49(2)
伊藤 頌文	第二次世界大戦期イギリスの地中海における帝国防衛——クレタ防衛戦とマルタ包囲戦を中心に——	安全保障戦略研究2(1)
伊藤 武	イタリア第2共和制における主流派政党の衰退	年報政治学2021(2)
井上 弘貴	共和党の「トランプ化」に歯止めはかかるか	国際問題701
梅崎 透	アメリカ政治のパラダイム変化はあるか 民主党左派とバイデン政権	国際問題701
大津留(北川) 智恵子	バイデン外交における人権	国際問題704
小川 健一	冷戦期英国のSLBMポラリス・システムの更新——CASD態勢をめぐるサッチャー政権の相克——	安全保障戦略研究2(1)
小川 浩之	EU離脱とイギリスの安全保障 — 「内部からの脅威」としてのポピュリズムと欧州懐疑主義—	国際安全保障48(4)
小野 純子	米国の対中国輸出管理政策 — エマージング・テクノロジーと経済安全保障—	国際安全保障49(1)
北村 厚	二〇世紀前半のヨーロッパにおける内戦・暴力・民主主義	国際政治202
草野 大希	米外交史におけるトランプ外交の「例外性」—リベラル国際秩序の動揺の果てに—	国際安全保障49(2)
工藤 芽衣	一九三〇年代仏新自由主義の誕生と国際秩序——欧州統合と大西洋協力の模索——	国際政治202
倉科 一希	米国の同盟政策における核兵器の位置づけの変容——核兵器共有と一九六六年NATO危機——	国際政治204
小島 真智子	グローバルな核秩序の溶解とフランス核抑止戦略	国際政治204
佐藤 隆信	欧州の武器輸出管理政策の効果と限界に関する考察	グローバル・ガバナンス7
シーラ・A・スミス	バイデン政権：インド太平洋地域におけるコアリション・アプローチ	国際問題701
重松 尚	権威主義政権に対抗するファシズム体制構想——リトアニア人行動主義連合(LAS)の分析を中心に——	国際政治202
仙石 学	ジェンダーと反欧州——ポーランドにおける若年層の政治指向	年報政治学2021(2)
高橋 慶吉	サムナー・ウェールズと西半球秩序——「土台」構築の試み——	国際政治202
高橋 力也	戦間期国際法の法典化と国際法学者マンレー・O・ハドソン——国際連盟とアメリカのはざままで——	国際政治204
武田 健	EU内部の同調圧力	年報政治学2021(1)
田中 亮佑	NATOの対中政策の可能性と限界 — 同盟機能からの検討—	国際安全保障49(3)
富田 晃正	米国通商史におけるトランプの逸脱と連続性 — 安全保障との関連性から—	国際安全保障49(2)
中川 洋一	2017年ドイツ連邦議会選挙と連邦政治への影響や含意——第四次メルケル政権の評価に向けて——	グローバル・ガバナンス7
中田 瑞穂	ヴェイレンス・イシューの政治——チェコにおける「ビジネス企業政党」ANOと政党政治の変容	年報政治学2021(2)
中村 登志哉	ドイツのインド太平洋戦略 — 米中対立と対中経済連携の狭間で—	国際安全保障48(4)
中山 俊宏	バイデン政権と中東——「9・11戦争」の終結とその含意	中東研究543
新川 匠郎	欧州における政権発足へ至る困難な道のり：質的比較分析(QCA)を通じた一考察	年報政治学2021(1)
蓮見 雄	中ロ接近とユーロ	日本EU学会年報41
長谷川 雄之	第2次プーチン政権下の憲法改革——制度変更にみる大統領権力——	安全保障戦略研究2(1)
東野 篤子	『国際政治』におけるヨーロッパ研究の傾向	国際政治204

福田 耕治	新型コロナ危機とEU統合——感染症制御と経済復興のマルチレベル・ガバナンス——	グローバル・ガバナンス7
福田 智洋	EU国際公共政策の実施措置決定手続に関する一考察——欧州委員会の権限管理戦略——	グローバル・ガバナンス7
藤田 将史	多国間主義と二国間主義の間——米国による国際収支支援の変遷についての実証研究——	国際関係論研究36
藤田 将史	米国のIMF利用における国内的意図——多国間組織への委任の批判回避機能——	国際政治204
藤原 帰一	バイデン政権と世界——アメリカ外交の転換と課題	中東研究542
前嶋 和弘	2020年アメリカ大統領選挙の検証 政治的分極化をどう超えていくのか	国際問題701
松本 俊太	バイデン政権と議会 本当に異例のことは何か？	国際問題701
水島 治郎	オランダ:「完全比例代表制」の1世紀	年報政治学2021(1)
水野 良哉	アーノルド・J・トインビーと一九三〇年代後半のヨーロッパ国際情勢	国際政治202
三牧 聖子	一九三〇年代に回帰する米国？——クインジー研究所と新しい国際主義の模索——	国際政治202
宮島 喬	国民の二層化と「移民・難民問題」の政治的構築——ヨーロッパ2015～16年“危機”の一考察	平和研究55
宮本 弘暁	米国の所得格差と経済政策	国際問題703
村田 晃嗣	トランプからバイデンへ——アメリカ政治外交の変化と継続——	国際安全保障48(4)
山口 信治	米国の対中認識の変化——中国の政治体制・イデオロギーに対する議論を中心に——	国際安全保障49(2)
山口 優人	テロリズム研究における「狂信」の語られ方——〈理性／狂信〉の恣意性に関する批判的研究——	国際政治204
山添 博史	ロシアの国際闘争手段としての核兵器——「戦略的抑止」における最終手段、紛争局限手段、言説攻勢手段——	国際政治203
山本 直	ハンガリーの権威主義化とEU——COVID-19対策期の軋轢——	グローバル・ガバナンス7
横田 正顕	尖鋭危機と政党システム変化——2010年代のスペイン・ポルトガル・ギリシア	年報政治学2021(2)
吉井 美知子	反原発運動における女性の役割——仏プロゴフと三重県芦浜の事例から	平和研究57
吉崎 知典	NATO結末のディレンマ——ウクライナ、ポピュリズム、コロナ危機——	国際安全保障48(4)
吉本 秀子	米国防省管轄下の広報外交——アイゼンハワー大統領行政府の沖縄政策調整過程から	インテリジェンス21
渡邊 啓貴	フランスのポピュリズムと治安・安全保障	国際安全保障48(4)